

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520118

研究課題名(和文)『集神州三宝感通録』巻中の美術史料論的研究

研究課題名(英文) A Study on Dao-xuan's Ji-shenzhou-sanbao-gantong-lu vol.2 from the Art Historical Perspective

研究代表者

肥田 路美 (HIDA, Romi)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：00318718

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：『集神州三宝感通録』は、中国初唐時代の道宣(596～667)が仏法僧三宝の上に現れた靈驗譚を集成したものである。本研究では、歴代各地で特に篤い信仰を得た仏像(瑞像)に関する巻中について、初めての全文の現代語訳をおこなうとともに美術史の観点に立った詳細な注解を加えた。三年間の研究期間に、中国への仏教初伝を語る第一縁(東漢洛陽画釈迦像縁)から梁武帝造立の二仏像に関する第三十縁(梁高祖等身金銀像縁)までについて完了、その成果を「美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究(六)～(八)」として刊行した。訳注の総頁数はA4版で316頁、注解は合計510項目を数える。

研究成果の概要(英文)：Ji-shenzhou-sanbao-gantong-lu, by Dao-xuan in Early Tang, is the compiled text of stories about divine and miraculous efficacy appeared through Buddhist relics or statues. This study deals with the second volume of the text which is mainly consisted of stories about Buddhist statues committed by all over the nation before Dao-xuan's time. This study has two academic significances. First, this paper provides the translated text into modern Japanese for the first time. In addition, the text is annotated in details from an art historical point of view. During last three years, I have worked translation and annotation of 30 articles from late Han to Liang. In particular, some of them, such as articles about Buddhist statues of King Asoka, or that of King Udayana from Jiangnan area are noteworthy. The result was published with the title, Ji-shenzhou-sanbao-gantong-lu studying as the material of art history, vol.6-8, 316 pages in total. It contains translation, 510 notes and three essays.

研究分野：仏教美術史

キーワード：東洋美術史 仏教史 仏教図像学 靈驗説話 瑞像 六朝時代 道宣 訳注

### 1. 研究開始当初の背景

中国唐代随一の学僧であり南山律宗の祖である道宣の晩年の著作『集神州三宝感通録』三巻は、仏教の伝来した後漢から道宣の生きた初唐に至る約600年の間に、仏法僧の三宝の上に現れた靈験を集録したものである。我が国の説話文学研究などの分野においても重要な文献とされてきたが、とりわけ、仏塔・仏舍利、仏像、寺院、経巻などの造形物にまつわる種々の靈異についての具体的な叙述は、仏教美術研究において現存作品の欠を補う格好の資料であるだけでなく、それらの造形物をめぐる信仰活動の実態を伝える、稀有な文献である。

しかし、これまでは部分的に参照引用されるにとどまり、誤訳の多い『国訳一切経』所収本を除くと訳注もなされてこなかった。そこで研究代表者は、2009年～2011年に科学研究費補助金(基盤研究C)の恵を得て仏塔・仏舍利に関する巻上について、特に美術史の観点から詳細な注釈をおこない、その成果を「美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究(一)～(五)」として刊行してきた。

本研究課題では、これに引き続いて同書の巻中を対象とし、後漢から梁代までの仏像の靈験についての詳細な注解を企図した。

### 2. 研究の目的

仏教美術の最も中心的な対象は、言うまでもなく彫塑や絵画で表現された仏像である。しかし、ではなぜ仏像を造るのか、仏像に何が期待されたのか、彫塑像と画像とでは性格が異なるのか、特定の仏像が模倣されるとはどのような意味か、といった根本的な問題も必ずしも解決されていない。本書の巻中に収められた靈験像に関する五十の縁起は、そうした問題を考える上で好個の素材である。また、たとえば何故南北朝時代の記事の圧倒的多数が北朝ではなく南朝、しかも特に東晋・劉宋時代に偏向したものであるのか、という点に注目することで、それらの記事を採録叙述した道宣の意図や態度、ひいては初唐仏教の置かれた状況や性格を探ることも、目的とした。

### 3. 研究の方法

『大正新脩大蔵経』巻52所収テキストを底本とし、大蔵経諸本、『続高僧伝』『廣弘明集』など道宣自身の著作や法弟道世の『法苑珠林』等を参考に文字を校勘し、現代語訳する。注解にあたって特に意図したことは、造形に関する事象を細大漏らさず拾い、単なる辞書的、事典的な注解とはせず、常に仏教美術史の観点から内容の拡大的解釈を試みることである。

これらの成果を毎年度小まめに公開することで広く意見を聴取し随時改訂を加えるという方針をとり、「美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究」を冊子体

で刊行、国内外の関連分野の研究者・研究機関に配布した。なお、研究協力者として3年間で大学院生、大学院修了者ら18名の協力を得た。

### 4. 研究成果

毎年度末に成果を『美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究(六)』～『同(八)』と題して刊行した。3年間の研究期間に、中国への仏教初伝を語る第一縁(東漢洛陽画釈迦像縁)から梁武帝造立の二仏像の靈験譚である第三十縁(梁高祖等身金銀像縁)までについて完了、訳注の総頁数はA4版で316頁、注解は合計510項目に及んだ。

注解の主立った事項を挙げると、優填王の釈迦画像、倚像、画工、白馬寺伝説の変遷と道宣活躍期におけるその受容、千乗万騎繞塔三匠之像、地に埋まっていた金像、浴仏、維衛仏、迦葉仏、七国が送った金銅像、阿育王像、長干寺像の模倣と流布、藻画、宝冠の着脱、仏像の坐勢の改变、丈八仏、長沙寺、仏塔内の行道、同泰寺、仏殿の規模と仏像安置の形態、長沙寺阿育王像のその後、仏像の出現に伴う金光、夢に仏を見たこと、齋会と仏像、戴逵、中古製像、釈迦文仏、銅盤と仏像が地中から掘り出されたこと、太子思惟像、阿育王の造った文殊師利菩薩、慧遠の墓、劉薩訶、番禾県瑞像、道宣の現地踏査、番禾県瑞像の模倣、法量不定、塑造、土の聖僧、経行、文殊の台座、床帳、劉宋代の弥勒像、禅堂、跋摩、坐形の菩薩像、堂の壁画、光背の用材選択、几、扶南国の石像、流汗の靈験、西域の釈迦と弥勒、中国における優填王像の受容と展開、檀像、釈迦による生母摩耶夫人のための忉利天説法、優填王像の制作に関する諸説、祇桓寺、金毘羅王、大明寺と静陵、荊州大明寺に安置された優填王像模倣像のその後、光宅寺、図様、大型金銅仏と図様の関係、大型金銅仏の制作方法、大愛敬寺、道宣の梁の仏像観、剡県の大石像、僧祐による石像の修造と改变、山巖より出現する仏像、造りかけの大仏、重雲殿、江陵の陥落と元帝、金剛力士。

当該範囲には、南京長干寺の阿育王像、荊州長沙寺の阿育王像、涼州番禾県瑞像、荊州大明寺の優填王像、剡県石城寺の弥勒大仏など、関係する作例が確認できたり、今日までの長い由緒を辿ることができる著名な仏像が含まれている。特にこれらに関しては、多くの関係文献や作例を可能な限り蒐集、整理し、図像の淵源や変遷、説話の成立、増広の状況を明らかにすることに努めた。そうした問題点を更に追究した論考として、阿育王像と君主権との関わりについて論じた「中国皇帝と阿育王像」(肥田2012)、荊州大明寺の優填王像に関する3編の論考「荊州大明寺優填王像考」,「陵墓に近接する仏寺としての荊州大明寺」,「仏

遊天竺記』と『双卷優填王経』(いずれも稲葉秀朗(研究協力者)著)を得た。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 9件)

肥田路美「弥勒仏像の諸相と「仏教」の流伝 四川地域の造像を例に」  
『仏教文明の転回と表現 文字・言語・造形と思想』勉誠出版、pp.379-406、2015年3月、査読無

肥田路美「敦煌蔵経洞請来「絹本西域仏菩薩図像集」の初歩的考察 ニューデリー国立博物館所蔵断片のいくつかの図像を中心に」  
『早稲田大学大学院文学研究科紀要』59輯第3分冊、pp.31-51、2015年2月、査読無

肥田路美「指日月瑞像をめぐって」  
林温編『仏教美術論集3 図像学 イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)』竹林舎、pp.351-370、2014年5月、査読無

肥田路美「雲氣紋的進化與意義」  
石森謙、顔娟英主編『藝術史中的漢晉與唐宋之變』台北・石頭出版公司、pp.169-192、2014年4月、査読有

肥田路美「七・八世紀の仏教美術に見る唐と日本、新羅の関係の一断面」  
『日本史研究』第615号、pp.53-78、2013年11月、査読無

肥田路美「四川仏教石刻の性格」  
氣賀澤保規編『中国中世仏教石刻の研究』勉誠出版、pp.268-295、2013年3月、査読無

肥田路美「四川省夾江千仏岩の僧伽・宝誌萬迴三聖龕について」  
『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第58輯第3分冊、pp.51-67、2013年2月、査読無

肥田路美「南北朝時期至唐代瑞像造型の特徴及意義」  
『慶賀饒宗頤先生九十五華誕敦煌学国際学術研究会論文集』中央文史研究館・香港大学・敦煌研究院編、中華書局、pp.64-68、2012年12月、査読有

肥田路美「中国皇帝と阿育王像」  
新川登亀男編『「仏教」文明の受容と君主権の構築 東アジアのなかの日本』勉誠出版、pp.115-142、2012年、査読無

[学会発表](計8件)

肥田路美「聖地に見立てる、聖地をうつす」  
羅漢寺石仏国重文指定記念シンポジウム「羅漢寺石仏の世界を考える 彫刻・図像・禅宗」別府大学、招待講演、2015年2月7日

肥田路美「瑞像信仰の東漸 - スタイン将来西域仏菩薩図像集を中心に -」  
龍谷大学アジア仏教文化研究センター「敦煌 仏教美術から見る中国化」シンポジウム、2013年11月23日

肥田路美「仏教美術における模倣の諸相と意味 スタイン将来「西域仏菩薩図像集」を題材に」  
第58回国際東方学術者会議、2013年5月24日、招待発表

肥田路美「隋唐朝における仏教美術の諸州頒布と、日本への伝播」  
日本史研究会例会「古代における国際秩序形成と仏教」シンポジウム、於京都、2013年2月24日

肥田路美「九世紀仏教彫刻の主題与図像 四川省夾江千仏岩摩崖を中心」  
東洋美術史学会国際学術大会、韓国東洋美術史学会・韓国国立中央博物館、於韓国ソウル、2012年10月13日、招待発表

肥田路美「天龍山石窟唐代窟の尊像構成について」  
“天龍山石窟 龍山石窟”国際学術研討会、天龍山石窟研究所・龍山文物保管所・早稲田大学東亜仏教文明研究所、於中国太原、2012年9月14日

肥田路美「關於夾江千仏岩摩崖第91号三聖僧龕」  
《夾江千仏岩》首發暨四川唐代仏教造像学術討論会、四川省文物考古研究院、於中国成都、2012年9月8日、招待発表

肥田路美「雲氣紋的進化與意義」  
藝術史中的漢晉與唐宋轉折國際学術研討会、台湾中央研究院歷史語言研究所、於台北、2012年6月25日、招待発表

[図書](計2件)

肥田路美(編著)『美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究(八)』  
総184頁、2015年3月、私家版

肥田路美(編著)『美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究(五~七)』  
総245頁、2014年3月、私家版

## 6. 研究組織 (1)研究代表者

肥田 路美 (HIDA, Romi)  
早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：00318718

(2)研究分担者  
なし

(3)連携研究者  
なし

(4)研究協力者  
濱田 瑞美 (HAMADA, Tamami)  
横浜美術大学・准教授

下野 玲子 (SHIMONO, Akiko)  
早稲田大学・文学学術院・非常勤講師

真田 尊光 (SANADA, Takamitsu)  
早稲田大学・文学学術院・非常勤講師

榎山 満照 (NARAYAMA, Mitsuteru)  
早稲田大学・文学学術院・非常勤講師

森 美智代 (MORI, Michiyo)  
早稲田大学・文学学術院・助手

大島 幸代 (OHSHIMA, Sachiyo)  
龍谷大学・龍谷ミュージアム・助教

羅 翠恂 (RA, Suijyun)  
京都造形芸術大学・非常勤講師

友田 真理 (TOMODA, Mari)  
東洋美術学校・講師

金 志虎 (KIM, Jiho)  
早稲田大学・會津八一記念博物館・助手

稲葉 秀朗 (INABA, Hideaki)  
早稲田大学・文学研究科・修士課程修了

徳泉 さち (TOKUIZUMI, Sachi)  
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

韓 普景 (HAN, Bogyon)  
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

呉 爽 (WU, Shuang)  
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

黄 夏 (Huang, Xia)  
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

萬納 恵介 (MANNOU, Keisuke)  
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

西川 真理子 (NISHIKAWA, Mariko)  
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

萩谷 みどり (HAGIYA, Midori)  
早稲田大学・文学研究科・修士課程

于 春 (YU, Chung)  
中国西安美術学院・副教授